

社会人基礎力協議会News



第4号 2020年6月30日発行

1 一般社団法人 社会人基礎力協議会 代表理事就任のご挨拶

代表理事 拓殖大学 教授 長尾素子

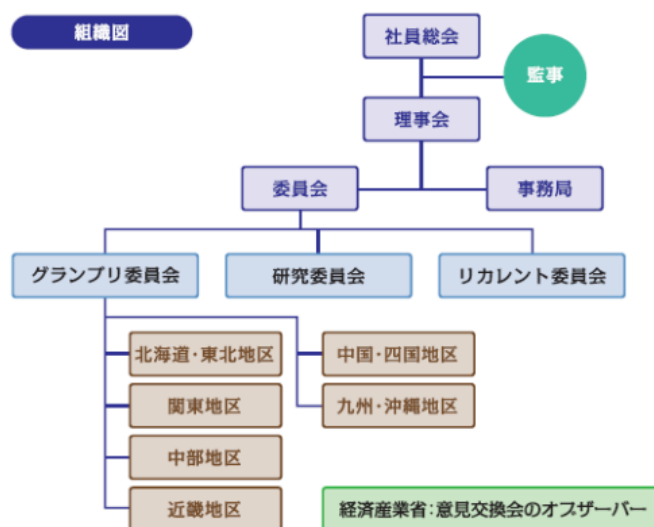
予測不能な「VUCAの時代」と呼ばれる現在、これまでのビジネスモデルや課題解決の枠組み、また人と人の関係性までもが大きく変わろうとしています。さらには、教育のあり方も大胆な変革を余儀なくされています。

ポストコロナを含めたこれからの時代における「社会で活躍する力」とはどのようなものでしょうか。最新の知識や技術は変化しても、それらを発揮するためには、「社会人基礎力」の3能力「前に踏み出す力」「チームで働く力」「考え抜く力」が必要であることに違いはありません。いえ、予測不能で変化の激しい社会だからこそ、ますますその重要性が大きくなることでしょう。

2020年度事業概要

本協議会では、時代とともに増す「社会人基礎力」の必要性を強く認識し、その普及と教育、研究に取り組んでまいります。経済産業省から引き継いだ「グランプリ」の運営、普及と教育に関する「研究」、さらには、人生100年時代を見据え、生涯学び続ける「リカレント」の各委員会を3本柱に据え、より一層社会のニーズに応えてまいります。

本協議会の意義と発展に皆様からのご支援、ご協力を何卒よろしくお願いいたします。



Profile

拓殖大学商学部 教授
異文化コミュニケーション論
株式会社TOKYO GLOBAL
GATEWAY (東京都英語村)
取締役COO
異文化経営学会 理事
グローバル人材育成教育学会
理事

2 一般社団法人 社会人基礎力協議会 理事会メンバー紹介

2020年度より理事会も新体制でスタートしました。新任メンバーも含めて、ご挨拶申し上げます。よろしくお願い申し上げます。



市川 純章

理事、グランプリ委員会 委員長
公立諏訪東京理科大学 工学部
コロナ禍であっても社会人基礎力の育成は大切。
こんなときこそ新たな観点が見えると期待します。



芝原 脩次

理事、リカレント委員会 委員長
専修大学 エクステンションセンター
企業35年勤務の実務家教員。知行合一を軸に
「結果を出せる力」社会人基礎力啓発を使命に活動。



栗田 るみ子

理事、研究委員会 委員長
城西大学 経営学部
IoTやAI技術の進展により時代は変革の時を迎えています。
新しい時代の社会人基礎力研究を進めます。



山崎 紅

理事、研究委員会 副委員長
成蹊大学 経営学部/人材開発コンサルタント
企業の人材開発部門経験やコンサルタント経験から、
ビジネス現場の視点を活かして貢献したいと思います。



来田 健

理事、拓殖大学 就職キャリアセンター
微力ながら、頑張っている学生、ご指導されている教員の
皆さまのため、少しでもお役立ちできるよう努めますので、
よろしくお願いいたします。



三瓶 剛史

理事、SMBCコンシューマーファイナンス株式会社
学生時代に出場した社会人基礎力育成グランプリに、
運営に関わることができ光栄です。社会人基礎力の普
及に少しでも寄与できるよう励んで参ります。



石田 龍夫

理事、事務局 局長
事務局長の石田と申します。大学職員として38年間奉職
させていただいた経験と知識を生かし、微力ではありますが
社会人基礎力の普及に取り組んでまいります。



清松 敏雄

監事、拓殖大学 商学部
監事の役割は理事の職務執行の監査ですが、その役
割を果たすだけでなく、一人の大学教員として学生の皆
さんの社会人基礎力向上に役立ちたいと思います。

3 2020年度グランプリ委員会事業計画

グランプリ委員会 委員長 市川純章

グランプリ委員会は、社会人基礎力育成グランプリの大会実施を行います。社会人基礎力育成グランプリは平成18年度に始まり、今年度大会で15回目となります。大会運営を通して、社会人基礎力の著しい育成を遂げた学生らを表彰するとともに、各大学での社会人基礎力育成への取り組みに関する情報発信に努めます。委員会メンバーは各地区大会の実行委員長から構成され、各地区の予選大会の運営を担当します。今年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、各大学の活動開始が遅れていることを考慮し、応募期間をできる限り後ろへずらし締め切りは12月末としました。全国大会は3月中旬を予定しています。これに先立つ地区予選大会は2月中旬に実施とします。地区予選大会の実施日は、各地区実行委員会毎に計画します。なお、北海道・東北地区に関しては、今年度は関東地区との合同を予定しています。

主な事業計画とスケジュール（予定）

2020年6月末 応募要領公開
2020年11月 地区予選出場校募集開始
2020年12月末 地区予選出場校募集締切
2021年2月 各地区予選大会開催
2021年3月中旬 全国大会開催（東京）

各地区実行委員長（敬称略）

北海道・東北 関東地区	公立諏訪東京理科大学 工学部 市川純章
中部地区	名古屋産業大学 現代ビジネス学部 内山哲治
近畿地区	摂南大学 総合経営学部 鶴坂 貴恵
中国・四国地区	松山大学 経済学部 松本直樹
九州・沖縄地区	九州共立大学 経済学部 森部 昌広

4 2020年度 研究委員会事業計画

研究委員会 委員長 栗田るみ子

「社会人基礎力」は、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力（12の能力要素）から構成されており、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」と提唱しています。本委員会はこれらを踏まえ、様々な分野への研究活動を行い、関連する問題、その対応や展望について議論する場を提供することではないかと考えています。そこで、今回研究委員長をお引き受けするにあたり、社会人基礎力を基盤にした研究活動として、①地域や企業や大学間などの関係をつなぐ多様性を意識した活動、②実社会との連携を促進して、実社会で役立つ活動、③主体的な行動を発揮させる活動の3点を考えました。これからの社会にとって、いずれも重要な事柄であると思います。本委員会では、多くの皆さまとの交流を通じて様々な研究活動を活発に行う所存です。ご支援をよろしくお願いいたします。

主な事業計画とスケジュール（予定）

2020年6月 ニュースレター第4号発行
2020年7月 第1回研究会テーマ： Zoomで集って学ぶ初めてのプロジェクトマネジメント
7/29（水）16:00～17:30 オンライン（参加費無料、先着25名様まで、詳細は協議会HPにて公開中）
2020年11月 第2回研究会テーマ： みんなが同じ方向を向ける「ゴール設定」のためのプロジェクトマネジメント
2020年11月 ニュースレター第5号発行
2021年1月 第3回研究会テーマ： メンバーと仲良くなる「信頼構築」のためのプロジェクトマネジメント
2021年3月 ニュースレター第6号発行

5 2020年度 リカレント委員会事業計画

リカレント委員会 委員長 芝原脩次

「おもてなし」で世界に日本の素晴らしさを披露するはずであった東京2020は、「まず命を守る」自粛の日々となりました。築き上げてきた日常生活は根底から揺り動かされ、「当たり前であることの大切さと同時に、変わっていく当たり前」を、世界の老若男女が、姿の見えない「ウイルス」との共生の中で確認させられています。

「人生100年時代」は、長寿社会と生涯現役・生涯学習の行動様式の中で、個々人のライフステージでの「リフレクション（振り返りと気づき）」を促し、「リカレント思想」が定着してきました。その上で、コロナ時代は「STAY HOME」「三密（密閉・密集・密接）回避」「ソーシャルディスタンス」「手洗い・マスク」などの「新・生活習慣」が求められ、「人と人の関係性の変化」と共に、「社会の中での自分（個人）」の在り方と知識・スキル・マインド面での適応性が問われ始めました。

2020年からの「リカレント教育」は、「何を学ぶのか（学ぶ）」「どのように学ぶか（統合）」「どう活躍するか（目的）」の3つの視点の領域が広がり深まって来ました。いま「社会人基礎力」は「STAY HOMEでのアクション（前に踏み出す力）」と「在宅勤務・テレワーク化でのシンキング（考え抜く力）」と「自粛・三密の回避の中でのチームワーク（仲間と働く力）」が問われ、益々その「意義と面白さ」を感じています。時代の変化が大きいほど、揺るぎない「個人の軸足」を鍛え上げておくことが「リカレント教育」の真髄であると信じて取り組みたいと覚悟しております。

主な事業計画とスケジュール（予定）

2020年6月 6/27(土)フォーラム(2020キックオフ) テーマ「コロナ時代の社会人基礎力とリカレント教育」＜オンライン＞
2020年7月 7/25(土)フォーラム テーマ「3月以降取組んできた事業プランと教育プログラムの事例紹介」＜オンライン＞
2020年8月 8/22(土)フォーラム テーマ（仮）「リカレント教育の大学・企業の今日的課題」＜オンライン＞
2020年9～3月 月1回フォーラム開催予定（テーマ及び運営方法については後日ご案内いたします）
2021年3月 「社会人基礎力とリカレント教育入門（仮称）」ハンドブック作成予定。

新型コロナウイルス感染症対策として、4月からの新年度、学校教育も企業研修なども様々な対応に迫られたことと思います。登校・出社が制限されるなかで、オンライン（オンデマンド・ライブなど）活用範囲が大きく広がってきている数か月間でした。こうした状況は、これまで以上に受講する側の積極的な取組姿勢、まさに社会人基礎力の「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」が求められます。また、提供する側（教員など）は、受講者の積極性、主体性の発揮を引き出す工夫をされていることでしょう。このたび、社会人基礎力協議会関係者から実施状況や工夫ポイントの情報収集をしましたので、ご参考までにレポートいたします。

アンケート項目

① オンライン授業取組状況 ② 受講生の様子 ③ オンラインのメリット ④ オンラインのデメリット ⑤ 授業運営などで工夫していること

<事例-1> 拓殖大学 商学部 長尾素子

- 5月4週目からすべての授業がオンラインで開始されました。TeamsとZoomを使い、対面と同様のライブ授業を行っています。「入門ビジネスコミュニケーション」の授業では、従来の授業と同じようにグループワーク、グループディスカッションを取り入れていてます。
- 教員も学生もとまどいつつ始まった授業ですが、今は一緒に授業を作り上げていく、という感覚をもっていただいているのではないかと感じています。協力して授業を盛り上げようという姿勢が見られますし、多少教員が失敗しても、寛容です。授業運営について学生がアドバイスをくれる時もあり、お互い協力し合いながら授業を作っているという雰囲気が醸成されています。
- 課題の提出日時や出席、欠席、遅刻などが分単位まで明確になるので、時間を守るようになったと感じます。また、多くの学生が顔を出してないなか、声だけが頼りなので、指名すると必ず発言してくれます。また、チャットでも盛んに発信され、むしろ発言のしやすさにつながっています。
- 学生の姿が直接見えないため、表情や態度から反応を読み取ることができません。また、本当に参加しているかどうか確認ができません。知識を問うテストが出来なくなりました。
- 初めての試みだからこそ、よりよい授業にするためのアイデアを常に学生から募集。対面でないからこそその繋がり方を模索させるために、グループを作り、授業外でも連絡を取って親交を深めるよう奨励。



<事例-2> 公立諏訪東京理科大学 工学部 市川純章

- 5月11日より授業開始。WEB（Moodle）掲示と会議システムZoomの利用が基本。授業は録画しWEBに掲載。人数の多い講義は講師側から一方的に配信する「ウェビナ」で、人数の少ないゼミは双方向に会話できる「ミーティング」で実施。学生は顔を出しません。プログラミング授業では、顔の代わりに作業中のPC画面を表示。授業中の質問は主にチャットを使用。
- 教員にとって表情が見えないのは不安ですが、学生にとって差は無いようです。授業へのWEB活用は感想・質問・レポート提出などで、これまでも行っていましたので変化はないと思います。実験授業は、4～5名単位の班で、ミーティングモードで行います。実験装置の様子をカメラ映像で見ながら2～3人の学生が積極的に会話しながらPCによるプログラミング作業を含めて実施しています。対面授業との差はほとんどないようです。
- 授業動画はWEB掲載するため、学生は授業の振り返りができます（掲載が遅れると学生から催促も）。チャットでの質問等は記録が残るため、授業展開を知る目安になります。対面授業よりも質問が多い傾向。
- 学生への問いかけの反応が少し遅い気もしますが、対面でもそれほど良いわけではありませんから変わらないでしょう。3人以上の会話は、声が疲りやすくなるため発話のタイミングが難しくなります。
- 提出したレポートの説明を本人に行ってもらおうなどします。また授業中は、質問に限らず、うなずきや周りの雰囲気共有もあるのでチャットでの発言を積極的に促しています。質問への回答も学生同士で行うように促しています。まだ慣れていないため、促さないと静かになってしまいます。



<事例-3> 専修大学 エクステンションセンター 芝原脩次

- サポートを含めて「Teams」「ZOOM」に関与。有事の緊急対応と言う事態の共有化に時間がかかったが、大筋なんとか動き始めている。教員のPC技量・理解度が、その運営・成果に出ている。学生側はPC操作に慣れており抵抗は少ない。受講生の開始時の興味を持続させていくことが課題で、工夫が必要。
- オンライン授業そのものには概ね抵抗はない。興味の持ち方度合いには濃淡がある。受講生の反応はざっくり「2:6:2」とみる。下位「2」の引き留めが目標。一方、その選別選抜には時間がかかる。最終成果と個人評価は難しそう。教員をサポートしたりリード出来る積極的な受講生が存在する一方で単独プレー得意型もあり面白い。仕組み上、横のつながり仲間づくりは難しい。リーダーシップ育成は工夫が必要。回を重ねると飽きてくる人が出たり、集中力が持続できない点は教室授業と大差ない。
- 学業継続の授業時間数の確保が出来ている点は大きい。軌道に乗れば、教員・受講生にとって負担なく円滑に運営しやすい。運営に未熟な教員（特に文系・高齢者）を支援する「ガイド」研修や体制が有効。オンライン授業そのものが「PBL（課題解決型学習）」の題材となり、「社会人基礎力」を追跡し学び磨く機会として人材育成の機会にもなる。教員側も「社会人基礎力」が問われる場面が多く、「受講生」の反応、変化、成長と「結果を出す力」の習得と成長度を多様な視点から点検できる。
- 教員の力量（PC知識・操作技術・創意工夫力等）によって、アウトプットに格差が出る。教員によって受講生の満足感・成果に不公平感が出る（授業の均質性が課題）。「チームワーク」育成、全員参加型の運営には制約が多く限界がみえるため、工夫が必要。「知識」を伝える内容では不都合は少ないが、実践力を問う対面型協働ワークや対人関係力の醸成環境づくりが課題。受講生の理解・習熟度が見えにくい。個人相談もあり、フォローアップの仕組みが必要。
- 事前研修、ガイド（教員向／学生向）学習を徹底する。特に教員側に問題多く、覚悟を持たせた当事者意識が問われる。興味を持つ意欲的な学生を巻き込み、運営管理者として学生チームを編成する。毎回消化することに追われず、余裕とメリハリを付けて仕切った内容で実施する。何をやったか双方で共有化出来るものとする。評価の考え方や基準を予め決めて関係者間で共有化しておく（例えば、「全員認定方式」「合否評価」「ABCD評価」「出席＆貢献度評価」「レポート評価」等）。評価は「育成・教育目的を一義」と考え、多面的で継続的な記録を残す。教室と遠隔型授業の効果的な組み合わせを研究する。

アンケート項目

①オンライン授業取組状況 ②受講生の様子 ③オンラインのメリット ④オンラインのデメリット ⑤授業運営などで工夫していること

<事例-4> 城西大学 経営学部 栗田るみ子

- ① 前期は全てオンライン授業のため、LMS、office365のアプリケーションを使っています。留学生の多いクラスは顔が一覧（25名）で収まるzoomを使います。ゼミは、授業開始30分程度は私から一方的に説明、その後課題に取り組み、最後にディスカッションをします。データマイニング（実習系）では、教員画面を共有して私の画面の動きで理解してもらいつつ進めます。ラジオDJになったつもりで、楽しく語りかける努力をしています。「わかった気になってくれればOK」と思い、対面になるであろう後期に、実習を重点的に行う予定です（スマホやタブレットで受ける学生への配慮）。いずれの授業も、思考を深めてもらう課題によるオンデマンドのみの回もあります。
- ② オンライン授業が開始され、ひとりで学ぶ環境に不安いっぱいだった表情が、日々安らいで行き、対面より教員を身近に感じるという学生が多い点は想定外でした。
- ③ チャット機能が発言を広げ、多様な意見を集約でき、教室が一体化する場面があります。対面授業では味わえない空間です。
- ④ ノンバーバルコミュニケーションが対面と比べると格段に減少、じれったい感じは否めません。
- ⑤ 人間の環境に順応する力を信じて「ゆっくり、焦らず」と発信し続けました。環境の変化は体調を崩しこれまで積み上げてきた全てのものを無意味なものにしかねないと思っていたからです。オンライン授業の開始から2か月が過ぎようとしています。最初は発言のタイミングがわからなかった学生達でしたが、ネット内でのコミュニケーション技法を確立しつつあります。つまり、一言でいうと、「タイミングの確立」です。

<事例-5> 東京家政学院大学 現代生活学部 金森 敏

- ① 5月から遠隔授業が始まりました。私の場合、ズームを用いてリアルタイムで行う場合と事前に録画し課題を与えるオンデマンドで行う場合の2つがあります。前者のズームを使った授業例として、インターンシップの授業などがあります。後者のオンデマンドの科目としては、経営学などの授業があります。
- ② リアルタイムでのズームでは、ブレイクアウトルームを使って意見の共有などを行うため、あまり対面の授業とは変わらないと感じています。一方で、オンデマンドの授業では、対面の授業よりも、学生は熱心に課題に取り組んでいるように感じています。大人数のクラスの中での学びでなく、一人で集中して学べるからではないでしょうか。
- ③ 特にオンデマンドの授業の場合は、事前に授業の準備をしておけば、1限目の授業にもすばやく対応ができる点です。
- ④ 出席管理や課題の提出の確認がデジタルなのに、一人一人クリックして見ていく作業です。非常にアナログさを感じています。
- ⑤ オンライン授業だからではなく、私の授業では、基本、正解がないものを授業として取り上げ、学生たちに自分で考えてもらっています。具体的には、経営学の授業では、学生に会社は誰のものか（株主？、経営者？、従業員？）を考えてもらいます。その際に、前年度の学生の考え（コメント）を学生に紹介することで、学生はどれが正しいのか、多様なものの見方があることを知ります。教員の視点ではなく、学生の視点を取り入れて、学生に考えてもらうのが、ちょっとした工夫かもしれません。そして、この「考える、正解がない」といった授業運営の根底には、社会人基礎力としての「考え抜く力」があるのではないかと考えています。

6 6/27（土）「2020年度6月フォーラム」開催しました

リカレント委員会

リカレント委員会では、2020年度協議会キックオフとして「2020年度6月フォーラム」を下記の要領で開催し、協議会の本年度方針と活動計画を提示するとともに、「コロナ時代の社会人基礎力とリカレント教育」をテーマに意見交換を行いました。詳細はHPなどから改めて発信いたしますが、ここに開催をご報告申し上げます。

日時 2020年6月27日（土）10：00～12：00

テーマ 「コロナ時代の社会人基礎力とリカレント教育」

内容 新代表理事挨拶、2020年度方針と活動計画ご報告、リカレント委員会から発題、参加者によるディスカッション

7 社会人基礎力協議会事務局も新しくなりました

事務局（株式会社学情 学校企画部）

今年度より、社会人基礎力協議会事務局も新体制となり、株式会社学情が担当することになりました。株式会社学情は、新卒学生及び20代社会人の就職・転職を「あさがナビ」「Re就活」等のサービスで支援しています。社会人基礎力に関する取組みは、2009年度に受託した経済産業省の調査事業であり、立上げ当初から10年以上関わっています。今後は事務局という立場で協議会活動全般を支え、皆様への各種情報発信（web運営含む）や、お問合せ窓口なども行います。下記のとおり、事務局の連絡先が変更になっておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

編集後記



このNewsでは今年度も大学や企業における社会人基礎力強化に役立つ情報を取り上げていく予定です。会員の皆様からの事例情報を随時募集しております。記事へのご意見、取り上げて欲しいテーマのご要望なども事務局までお寄せください。よろしくお願い申し上げます。
（担当：研究委員会副委員長 人材開発コンサルタント 山崎 紅）